

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

連番	1171	例会No.	OP 378	内容	小秀山(1,982m)	実施年月日	2023/11/3~5	担当者	小椋(勝)、杉本、山倉(康)	
参加者	中村、大森、佐野、上野、北山、原(康)、中原(正)、中原(俊)、小椋(美)								参加者数	12
担当者コメント	<p>11月3日 AM7時に難波に集合、3連休でもあり渋滞が予想される中出発。案の定渋滞に巻き込まれ木曾福島に着いたのは午後2時ごろ。時間が早ければ木曾氏の城跡 城山にハイキングに行こうかと思っていましたが取りやめ食料を調達し泊地に向かう。今回、中村さんの計らいで会社の保養所に宿泊。木立の中の保養所はとても綺麗で雰囲気がよくひっそりと佇んでおり、そんな山荘の周りは紅葉の盛りも終わり冬へと足早に向かっていました。事前にクマの出没情報もあり夜の外出は控えその日の晩は鍋を囲み語りました。11月4日朝6時に山荘を出発し登山口に向かって行くか静かな王滝村は朝食の用意だろうか。家々の煙突から煙が上がる牧歌的な景色、そんな村中からダートな林道に入り登山口に向かう。登山口に到着後、挨拶を済ませ登り始めるがいきなり急登。息を切らせながら景色も望めない尾根道をひたすら上る。3時間ほどで頂上に着くと目の前に御岳山が現れる。小秀山から見る御岳山は綺麗な円錐形で大きくすそ野が広がり雄大である。各自景色を楽しみ昼食後下山する。下山後自然湖や王滝村の紅葉を楽しみ泊地に戻る。この日の晩はBBQでワイワイガヤガヤ、ゆく秋を楽しみながら語らいほんの少しお酒も楽しみ就寝しました。11月5日 この日は渋滞が予想されるので早々に出発し中津川で新蕎麦を食し解散。早く出発したおかげで渋滞にも会わず早めの帰宅となりました。おかげで楽しく素晴らしい景色の中3日間を過ごすことができ中村さんに感謝、ありがとうございます。記:小椋(勝)</p>									
連番	1172	例会No.	一般 788	内容	播州・とんがり山(257m)	実施年月日	2023/11/5	担当者	野原、飛田	
参加者	神阪、西田、長谷川、山田、山崎								参加者数	7
担当者コメント	<p>今日の例会参加メンバー5人の内、私にとって4人は初対面。一瞬「えっ、この人達EPEの新入会員？」と戸惑う。今日はフレッシュな顔ぶれ中心の例会となりました。駅から数分も歩くと大津茂川に出合う。川沿いの遊歩道を歩くと正面に「とんがり山」が見えました。標高257mの低山ですが、これほど尖がっていると登高意欲が出てきます。稲荷神社を左折して20分程で峰相山登山口到着。登山口から稜線まで15分程度の急登が続く。稜線からは緩やかな登り下りが続き、伝説の大岩「亀岩」到着。360度の展望スポットで見晴らしは抜群。標高が低いことから真夏なら灼熱地獄間違いなしの場所だ。この「亀岩」は「神岩」とも呼ばれているそうで、岩の上にある「くぼみ」(20のペットボトル2~3本も注げば溢れる程度の小さなくぼみ)に溜まった水は年中枯れないとのこと。最近晴天続きで雨が降っていないはずだが、この「くぼみ」には水が溜まっており「はて、この水はどこから・・・？」と疑問が沸きました。亀岩からとんがり山へは激坂との記録が多く、黄白の虎ロープが左右に張られている。覚悟して挑むもあつげなく頂上に到達。頂上は予想したよりも広く昼食大休止とする。とんがり山から峰相山まではなだらかな稜線を辿る。峰相山手前は特になだらかで、日本最古の寺とも言われ、最盛期には金堂、講堂他300余りの僧坊等を擁した「鶏足寺」(201年創建、因みに現存する日本最古の寺と言われる飛鳥寺は596年創建、法隆寺607年創建)という大寺があったという。そのような長い歴史を持った寺であるが、織田信長の中国攻めの命を受けた羽柴秀吉の軍師・黒田官兵衛によって1578年に全山焼き討ちにあい、1370年を超える長い歴史の幕を閉じた。峰相山からの下山路はいくつか存在するが、開山堂に直接到達するコースを降りる。開山堂で小休止した後、舗装路をのんびり歩いて峰相山登山口を経て太市駅に到着。駅前で解散としました。記:野原</p>									
連番	1173	例会No.	一般 789	内容	金剛山地	実施年月日	2023/11/12	担当者	西村(晶)、飛田	
参加者	黒澤、村木(と)、村木(正)、保木、大森、上野、佐野、中川、西田、谷								参加者数	12
担当者コメント	<p>島ノ谷沿いの道を進むとのかな里山の風景が広がっており、ゆったりとした時間が流れていく所なのかと感じる集落でした。見覚えのある七望流蕎麦道場の立札を見つけました、何度も美味しいお蕎麦をいただいた蕎麦道場の蕎麦畑です。十字峠より林道を少下ってから標識に従って峠を越えて石見川に向かい、林道を少し歩いた所より鳥地獄の谷道に入る。鳥地獄といわれる不気味な泡の沸き立つ小池への道は不鮮明で幾度か藪を漕いで辿り着きました。池には蛇と蛙の死骸があり不気味さを漂わせていました。鳥地獄での時間ロスリカバリーする為に杉尾峠まで一気に登りましたが、千早峠を過ぎる頃から小雨となり、久留野峠では小休止することなく一気にバス停まで下降しました。記:西村(晶)</p>									
連番	1174	例会No.	OP 379	内容	鈴鹿・鞍掛峠~霊仙山(1083.5m)	実施年月日	2023/11/18~19	担当者	杉本、小椋(勝)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	中止									
連番	1175	例会No.	一般 790	内容	八瀬比叡山口~比叡山(848.3m)~坂本	実施年月日	2023/11/26	担当者	山倉(康)、森本(善)	
参加者	渡辺、堀、上野、西村(美)、大森、佐野、中野、山田、原(康)、岩本、村木(と)、森本(咲)、西田、西村(晶)、山倉(知)								参加者数	17
担当者コメント	<p>八瀬比叡山口駅前には紅葉が今盛りです、観光客も多く見られました。駅前から車道を少し歩き高野川を渡り車道を登ると途中登山口付近にはクマの目撃情報が張られていました、今年5月に目撃されていたようです。西山峠までの道はあまり整備されていないようで道標もなく倒木も多少ありました、途中1回の休憩で西山峠へ、ここから少し下り林道状の道へ出てなだらかな道を辿り11時30分延暦寺着、延暦寺周辺の紅葉は終わっているようでモミジの絨毯ができていました。暖房の入った休憩所で昼食休憩をし日吉大社付近まで下ると紅葉が見られます、紅葉の参道を楽しみながら下り、13時30分JR比叡山坂本駅で解散としました。記:山倉(康)</p>									
連番	1176	例会No.	一般 791	内容	近江富士・三上山(432m)&義仲寺	実施年月日	2023/12/3	担当者	野原、山倉(康)	
参加者	佐野、中原(俊)、村木(と)、原(康)、喜多田、石上、中嶋、砂山、中川、西田、中原(俊)、前田								参加者数	14

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

<p>担当者コメント</p>	<p>今回は下山後の義仲寺への移動を考え、逆コースに計画変更。ところが、町外れの池に上がる地点にあった扉に番号錠が取り付けられており通り抜けできない。想定外の事態に再度計画変更。表登山道を経て三上山に登り、下山は裏登山道に変更することに決め引き返す。引き返す途中でたまたま洗濯物を干していた女性に声をかけられ、錠がかかっていることを伝えると番号錠の番号を教えてくださいました。感謝、感謝です。今回の例会最大の功労者はその女性かも？ 再度引き返し扉を無事に通過、東光寺越までの登山道を辿る。東光寺越の直ぐ先から頂上へコースは一般向けと熟練者向けの直登ルートに分かれる。選択はメンバーに任せ、頂上で合流。早めの昼食としました。昼食後、表登山道を下るが当初考えていた以上の岩まじりの急坂で、気の抜けない下降が続く。下降の途中にあった「割岩」は身体を通すのが精一杯。狭い所は30cm程度か。ザックを背負ったままでは通過不可能。ザックを外して横向きのカニ歩きでやっとならぬと通過できました。割岩の説明文には「肥満度調査可能」と記載されており納得した次第。肥満の方は腹がつかえて通過困難です。その後は淡々と下降を続け登山口に到着。そこから1時間程度の道路歩きで野洲駅へ向かう。帰路途中に見上げた三上山は見事な三角錐。見飽きることがない姿、さすがに近江富士と呼ばれるにふさわしい山容でした。義仲寺は源範頼・義経の軍勢に討たれた木曾義仲(源義仲)がこの地に葬られ、後年一人の尼僧がこの地に庵を建て義仲の霊を生涯弔ったという。この尼僧こそが、義仲の側室女武者として名高い「巴御前」と言われ、この庵が義仲寺の礎となる。この義仲を敬愛したのが松尾芭蕉である。「旅に病んで 夢は枯野を 駆けめぐる」の辞世の句を残して逝った芭蕉の「自分の亡骸は義仲寺に葬るように」との遺言によってこの地に埋葬されることになった。芭蕉の命日は元禄7年10月12日で、死亡した御堂筋にあった宿から淀川を船に乗せられ、夜を徹してこの地に運ばれ14日に義仲の墓の横に埋葬された。命日の10月12日は新暦に直すと11月28日、埋葬されたのは11月30日になります。つまりこの例会の3日前です。今回は山だけでなく文化の趣も少しは加えたいと思い、この例会を計画、実施しました。記:野原</p>									
<p>連番</p>	<p>1177</p>	<p>例会No.</p>	<p>一般 792</p>	<p>内容 丹波富士・牛松山(636m)</p>	<p>実施年月日</p>	<p>2023/12/10</p>	<p>担当者</p>	<p>森本(善)、山倉(康)</p>		
<p>参加者</p>	<p>原(康)、原(正)、西村(晶)、西村(美)、安岡、駒井、中野、大森、西田、中川、村木(と)、神阪、前田、中原(正)、岩本</p>							<p>参加者数</p>	<p>17</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>京都嵐山から保津峡沿いに走る列車の車窓から、鉄橋やトンネルを幾つか抜けると、突然それまで快晴だった溪谷の景色から白い濃霧の亀岡駅に着きました。9:15 濃霧の中、亀岡駅を徒歩で出発、途中駅に隣接する京都サンガF.C.の巨大なスタジアムを横目に、霧がかかった国道を登山口に向かって進む。国道からバス道に入り途中、右に折れ登山口に向かって竹林の中を進むととても趣のある福性寺の山門を横切り鳥居のある登山口着。9:50 鳥居をくぐることから登りが始まります。この登山道は頂上にある金毘羅神社の参拝道で、灯籠や丁石が全部で約20丁(正確には数えていませんでした)程ありました。ゆっくりした登りが続き、同時に気温はどんどん上がり、各自防寒着を脱ぎながらの登山です。中腹あたりで視界が開け、晴天のもと亀山盆地を満たす雲海が周りの山々に囲まれて眼下に広がっていました。牛松山から雲海を眺めることができることは幸運です。幾つもの丁石を過ぎ、もう頂上も間近と思ったころ、再び鳥居が現れぐり抜けると、そこは金毘羅神社でした。12:50 各自思いおもいに手を合わせ、その後ゆっくりと昼食を済ませ、愛宕神社に向けて下山開始。牛松山の三角点は金毘羅神社より下山道沿いに約20mほど下った所にあります(ちなみに三角点の座標等の行政記録は「点の記」と云うそうです)。三角点を確認し愛宕神社に向けてひたすら下り、12:40頃 愛宕神社(「元愛宕」又は「愛宕の本宮」)着。3つ目の鳥居をくぐり末枯れた並木道の中、最後まで彩づいているもみじの下で記念写真を撮り、霧の晴れたバス道をのんびり歩き桂川を渡ると亀山駅着(13:50頃)。ここで解散しました。振りむけば保津川の向こうに牛松山(丹波富士)がのんびりと鎮座しています。記:森本(善)</p>									
<p>連番</p>	<p>1178</p>	<p>例会No.</p>	<p>一般 793</p>	<p>内容 和歌山県 天狗岳(967.9m)</p>	<p>実施年月日</p>	<p>2023/12/17</p>	<p>担当者</p>	<p>山倉(康)、森本(善)</p>		
<p>参加者</p>	<p>村木(と)、村木(正)、大森、山倉(知)、駒井、安岡、佐野、上野</p>							<p>参加者数</p>	<p>10</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>8時30分橋本駅に集合するころから雪が結構降ってきました。道路が心配ですがとりあえず出発しました。山間部に入ってくると積雪有り、対向車はボンネットと屋根に積雪有りで森本さんのタイヤはノーマルです、念のため森本車を途中の道路わき広場に駐車しスタッドレス仕様の村木車と山倉車に分乗して登山口へ向かいました。アスファルト上は積雪も凍結もありませんでしたが駐車スペースは積雪約5cm、9時半準備を済ませて林道終点を目指します、荒れ果てた林道を約30分で終点着、記録によると天狗沢左岸を行くとありましたので左岸へ渡りGPSとにらめっこしながら進むと赤いテープを確認、数は少ないがテープがあります、踏み跡らしきものはありますが倒木が多く往生します、沢の水がなくなるころより右岸に目印を発見、記録によるルートは沢沿いを行くようにありましたが沢ははかかなり荒れている様子なので右岸へ渡って尾根に登り途中から急ですが天狗岳への直登目指してGPEをたよりに急な樹林帯を約1時間半這い上って12時半頂上に着きました。展望は全くききません、積雪と風でかなり冷え込んでいます、早々に昼食を済ませ下山開始、下山路は記録通りのルートで下ります、尾根上ははかかなり赤いテープを発見できました。下りもGPSが頼りです、尾根鞍部から天狗谷へ右にルートをとります。ここは間違いのないように要確認です、下の沢がどの程度荒れているか様子がわかりません、積雪で分りづらい踏み跡らしきところを下りさらに道なき道を1時間半下り、14時10分林道終点に出ました。14時30分駐車スペースに戻り解散となりました、シーズン最初の初積雪登山皆様お疲れさまでした。記:山倉(康)</p>									
<p>連番</p>	<p>1179</p>	<p>例会No.</p>	<p>一般 794</p>	<p>内容 六甲山・東お多福山(697m)</p>	<p>実施年月日</p>	<p>2023/12/24</p>	<p>担当者</p>	<p>西村(晶)、翁長</p>		
<p>参加者</p>	<p>黒澤、大森、上野、佐野、中川、西田、中原(俊)、中原(正)、中山、山田、山崎、西村(美)、安本(昭)、安本(嘉)、中村、原(康)、中野、西向、山倉(康)、中嶋、岩本、祓川、榊田</p>							<p>参加者数</p>	<p>25</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>阪急芦屋川駅前の広場は沢山の登山者で賑わっているのだが、年の瀬で忙しいのだろうか登山者が少ない。高座の滝までは緩やかな車道を進む、高座の滝で小休止、あったかいので防寒着をザックに押し込む、ここから風吹岩までがゴツゴツしたロックガーデンの登山道を登る、日差しも穏やかであったかい良い天気にも恵まれました。雨ヶ峠付近は風が吹き込んで来ないので昼食をいただく事にする。東お多福山頂上からは二上山、大和葛城山、金剛山が遠くに見る事ができました。穏やかな天候に恵まれた1日でした。記:西村(晶)</p>									
<p>連番</p>	<p>1180</p>	<p>例会No.</p>	<p>一般 795</p>	<p>内容 新年ハイキング 旗尾山(548m)</p>	<p>実施年月日</p>	<p>2024/1/8</p>	<p>担当者</p>	<p>西村(晶)、野原、杉本</p>		
<p>参加者</p>	<p>有永、大森、上野、小椋(勝)、小椋(美)、翁長、喜多田、木下、黒澤、古松、佐野、谷、飛田、中川、中嶋、松田、中原(正)、中原(俊)、西田、西野、西向、西村(美)、馬場、原(康)、附野、森本(善)、森本(咲)、脇、本田、前田、榊田、實操、三原、村木(と)、村木(正)、山崎、山田</p>							<p>参加者数</p>	<p>40</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>2024年最初の例会と4年ぶりの新年会開催とあって総勢40名の参加者となりました。予定の登山コースの状況確認と歩行時間を調べるために12月末に偵察山行を行いました、クヌギ峠から田山、府山山、旗尾岳から天見駅に向かうラウンドコースだと歩行時間が長くなるので賽ノ神〜林道オノ神線〜葛城第18番経塚より主稜線に向かうコースに変更しました。賽ノ神より緩やかな林道では久しぶりに会った人たちがにぎやかにしゃべったり笑ったり楽しく登っていました。葛城第18番経塚に登るのは急坂でロープに助けられながら登りましたが下るのも大変でした。主稜線から旗尾岳までは少しのアップダウンが続きますが、1時間弱で旗尾岳に辿り着きました。記:西村(晶)</p>									

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

連番	1181	例会No.	新年会	内容	2024年新年会・河内長野荘	実施年月日	2024/1/8	担当者	森本(善)、山倉(康)、前田		
参加者	新年会:有永、飯尾、岩本、大森、上野、小椋(勝)、小椋(美)、翁長、河合、喜多田、木下、黒澤、神阪、古松、近藤、杉本、谷、飛田、中川、中嶋、中原(正)、中原(俊)、中山、西田、西野、西向、西村(美)、西村(晶)、野原、畑山、馬場、原(康)、附野、保木、本田、榊田、松田、實操、三原、村木(と)、村木(正)、安岡、山倉(知)									参加者数	46
担当者コメント	新型コロナウイルスの影響で2020年以来4年ぶりに河内長野荘で開催することができました。4年間で27名の新しい会員を迎えることができました。報告会は小椋新代表の挨拶で始まりました。新型コロナウイルスの影響で2023年度も例会が実施できないことが少なからずありましたが、2023年度はEPEクラブ創立20周年にあたり、中抜き百名山の一番利尻岳、100番屋久島の宮之浦岳、日本最高峰の富士山、ふるさと富士シリーズ10座登山と周年記念事業を実施したことが何よりでした。記念イベントの締めくくりとしてEPEクラブ発足の地、岩湧山で集中登山を実施し参加者全員が参加賞を頂きました。また、泉州山岳会のご協力でおいしいぜんざいを頂くことができました。ありがとうございました。新年会も小椋会長の挨拶で始まり、遠路はるばる長野県よりお越しいただいた松田さんより乾杯の音頭を取ってもらいました。その後、例会最多参加賞を受けられた3名に表彰と賞金の授与がありました。20周年ということでビンゴゲームで参加者全員に賞品が当たるようにしました。新年会が初めての方も多数おられ、宴会が進むにつれて場が盛り上がるようになりましたが、19時お開きとなりました。記:杉本										
連番	1182	例会No.	一般 796	内容	東の川越～小川城跡(410m)～宝泉寺	実施年月日	2024/1/14	担当者	小椋(勝)、森本(善)		
参加者	大森 村木(正) 村木(と) 佐野 三原 杉本 岩本 駒井 小椋(美)									参加者数	11
担当者コメント	今回は天誅組終焉の地を訪ねました。私自身の勝手な思いこみで驚家口にたどり着くまでに天誅組隊士も東の川越を歩いたのではと考察し東の川越から驚家口に向かいました。上市駅からタクシーに乗り東の川(うのかわ)の集会所を通り過ぎ養魚場で下車。挨拶を終え歩き始める。舗装された林道から荒れ果てた林道に入っていくと、道も分からない急登になり不安定な足元を慎重に登って行く。急登の後、林道の跡(街道跡)のような道へと合流するがその道も荒れていた。息を切らせながら登ると、ガードレールが見えてくる。東の川越だ！少し落胆しながら大きな林道に出て歩きヘリポートに着く。少し休憩し北に向かって小川城跡を目指し進んでいく。暫く歩くと石積の構造物が現れた。城跡の一部かと思われる。小川城跡に近づいてくると二重の堀切りが残っていた。主郭は石碑と神社があるだけの城跡だが千早城の面影が何となく感じ取れる。少し休んで下山する。高見川に半島のように突き出た尾根は驚家口の真上であり伊勢街道を見下ろすことができることから驚家口の集落を観察するには最高な立地条件である。小川城は南北朝時代、北朝方の遺構であるが同じ皇軍と言うことでこの城跡を通して驚家口に攻め入ったか、あるいは北朝方と言うことで回り道をしたか定かではないが戦略的には重要なので、この城を通過したのではと私なりに考える。下山後、驚家口の町を散策し帰阪した。天誅組のシリーズはこれで終わりにしようかと思っていたのですが、まだまだ奥が深く終わることができません。次回は伯母谷の集落を歩き「天誅窟」を訪ねようと思います。記:小椋(勝)										
連番	1183	例会No.	一般 797	内容	金剛山 (1,125m)	実施年月日	2024/1/21	担当者	西村(晶)、飛田		
参加者	上野、佐野、西村(美)、中村、中野、谷									参加者数	8
担当者コメント	天気予報では10時頃には雨が上がり良くなる予報だったので期待して出発しました。気温が高くて標高880mのセトに着く頃には汗で下着がびしょ濡れになりました、あたりに雪の気配もありません 白く輝く霧氷を楽しみに計画しましたが残念です。ピクニック広場の東屋まで足を延ばす、止む気配の無い空を見上げながら昼食をいただきました。久留野峠より降りかける頃にやっとな雨が止み止まりました、天気予報では10時頃といっていました。小雨が降る山歩きも楽しいかもしれませんが、手元が濡れるのはすきではありません。記:西村(晶)										
連番	1184	例会No.	OP 380	内容	比良・蓬莱山	実施年月日	2024/1/21	担当者	山倉(康)、野原		
参加者										参加者数	
担当者コメント	雨天中止										
連番	1185	例会No.	一般 798	内容	丹生山系・金剛童子山(565.4m)～花折山(573.8m)	実施年月日	2024/1/28	担当者	杉本、前田		
参加者	山倉(康)、森本(善)、岩本、西村(晶)、西村(美)、山倉(知)、佐野、中野、黒澤、北山									参加者数	12
担当者コメント	大池駅に降りると駅周辺は新しい家が立ち並び新興住宅地の感じがするが、駅から15分も歩くとそこはもう山の中になる。天下辻では地図に点線の記載がないがしっかりした目の前の道を行くことにする。この付近の山系は里山らしく地図に記載のない道がいたる所にある。しっかり地図で確認して歩かないと思わぬところに出してしまう。金剛童子山で道迷いのような事が起こるが地図で確認して道迷いを避けることができた。これが里山の怖いところだ。この付近はモトクロスのバイクが走った跡があり道が傷んでいる。古倉山へは道はないが目の前が頂上であることがはっきりとわかり木々の間もすっきりとして傾斜もゆるく歩きやすそうなので地図上のルートはずれるがここから登ることにする。下りは地図にあるルートを取るが傾斜がきつい。最後のピークの花折山は山名板がないと探すと頭上はるか上4mのところ黒くなって読みづらいのが付けてあった。いつ頃に付けられたのだろうか。今回たどったルートは4山頂は標高こそ低いですが結構歩きごたえのある楽しいコースであった。記:杉本										
連番	1186	例会No.	OP 381	内容	大峰・天女の舞	実施年月日	2024/2/10～14	担当者	小椋(勝)、山倉(康)		
参加者	有永、杉本、村木(正)、中村、安岡、上野、大森、小椋(美)									参加者数	10

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>最近暖冬傾向なので雪があるか心配で山行1か月前から天気予報を気にしていました。前日の天気予報では何とか雪が降る気配。期待を胸に泊地に行くけど雪がない！キャンプ場の管理人も今年は特に雪が少ないと言って顔を曇らせていました。気を取り直しバンガローで温かい鍋を囲み山談議に盛り上がる。翌朝、朝食を済ませ川上村役場の駐車場に向かう。駐車場には早い時間から数人の登山客が発の準備をしていました。準備後 挨拶を済ませて歩き始める。登山口からしばらく登るが雪はなく暖冬の影響を強く感じた。急登の尾根はきつく息を切らせながら登ると林道にでる。そこから見る稲村岳は霧の雲海に浮かび堂々とした山容だ。疲れも忘れる。大小のピークを越えて栃尾辻に着くがここまで来ても雪は少なく期待した樹氷などが見られない。目的地はどんなだろうかと不安になる。ここからあと少し、少し頑張り天女の舞に着く積雪は10~15cm程度 樹氷はなし、期待はしていなかったが残念だ。天女の頂に登り昼食を取り下山する。下山時アイゼンの装着、歩き方などをリーダーからの講習を受ける。下山は長い尾根道を黙々と歩き役場駐車場へ。駐車場で荷をほどき解散する。今回の山行は温暖化の影響を身近に感じた山行でした。あと数年すれば関西以西での雪山ハイキングは出来なくなり孫たちは雪を見ることも触れることもできなくなるのでは。何とかしなければ…… 記:小椋(勝)</p>									
連番	1187	例会No.	OP 382	内容	第20回スキーカーニバル北海道・イン・富良野	実施年月日	2024/2/10~14	担当者	西村(晶)、山倉(康)	
参加者	村木(と)、木下、中川								参加者数	5
担当者コメント	<p>20数年ぶりにスキーを滑った方が2名参加でしたが、リフトを降りて滑り出すとスキー板を揃えてのパラレルで回転していたのでびっくりしました、本人も普通に滑れるのでびっくりです、富良野の雪はパウダースノーです。初日は北の峰ZONEの広大なゲレンデを大きくウェーブを描きながらのターンを繰り返して重心の位置を確認しながらの滑りでした。2日目は富良野ZONEで101人乗りのロープウェイに乗りダウヒルコースを滑降しました、雪質はもちろんパウダースノーです。3日目は北の峰ゴンドラに乗ってのスキー練習でしたが、気温の上昇によってゲレンデの下部は湿雪になってきたので早々にホテルに引き上げました。富良野スキー場は粉雪の舞う雄大なゲレンデです、大雪連山を眺めながら楽しい仲間と豪快にスキーを楽しめる所です。記:西村(晶)</p>									
連番	1188	例会No.	一般 799	内容	高槻市 黒柄岳(526.9m)、明神ヶ岳(523.5m)	実施年月日	2024/2/11	担当者	杉本、野原	
参加者	祓川、原(康)、原(正)、佐野、大森、中原(俊)、駒井、岩本、山田、山崎、中原(正)、上野、北山、島野(体験参加)、池田(体験参加)								参加者数	17
担当者コメント	<p>地図を見るとバス停からの近道があったのでしばらく進むと、家から出てきた人に「そちらは柵をしていて行けませんよ」と声をかけられる。その人の家の横の道を行けばよいと教えられる。登山口から林道を歩き登山道に進むが、付近は耕作放棄地のように道がはっきりしない。獣除けの電気柵が張られて右往左往する。道らしきところに行くが、踏み跡らしきものがあるだけで、ほとんど人が歩いていないようだ。黒柄岳からの稜線に出たところでやっと山道らしくなってきたが、依然としてはっきりしない登山道である。出発から1時間ほどでNTTの電波塔管理道路に出る。そのまま舗装道路を行けば黒柄岳に行けるが、目の前に登山道があるのでそれを登る。黒柄岳から明神ヶ岳の登山口までは林道歩きになる。明神ヶ岳の山頂は山頂らしくない平たんな山頂だ。この付近はパノラマコースと地図に書いてあったが、木が茂っていて展望がない。下山口までのルートも里山らしくややかしい道でやっと予定のバス停に到着、解散とする。記:杉本</p>									
連番	1189	例会No.	OP 383	内容	高見山(1,721m)	実施年月日		担当者	森本(善)、小椋(勝)	
参加者	前田・上野・榎田・佐野・山倉(知)・山倉(康)・村木(と)・村木(正)・小椋(美)・原(康)・駒井・大森・脇・森本(咲)								参加者数	16
担当者コメント	<p>日本列島は2つの大きな高気圧に覆われているのに、その境目に南から暖かい湿った空気が入り込み、高見山は一か所でも雪のない時雨れた天気でした。9:00近鉄桜井駅で集合し、4台の車でたかすみ温泉へ向かい天好園駐車場に到着。びっくりするほどの車の数と登山者。持参したアイゼンは車内に残置し、平野川に架かっている赤い橋を渡ったところが登山口です。気温は高く、雪の気配なし。曇り空の下、急登し尾根上に出てその後沢筋に登り樹齢1000年と云われている高見杉の避難小屋着(10:00)。ここで休憩し、高見杉を仰ぎ見ながら再び登る。この頃より時々うすうす青空が見え隠れし、小鳥の鳴き声や上空には旅客機が飛行する音も聞こえ、もしや頂上は晴れるのではと一抹の期待を抱きながら16名のEPEは黙々と登って行きました。11:00風が強くなり始めたころ杉谷平野分岐着。休憩し防寒着を着用後全く雪のないやや細くなった尾根道をひたすら登る。途中、笛吹岩、揺ぎ岩、等のいわれのある岩を通過する。樹氷があればさぞや綺麗だろうと思わる細い木々の樹幹沿いの尾根道を、頂上へと向かう。天気は相変わらず時雨れ空である。期待どおり雪は無く、眺望もきかない頂上着。樹氷があればさぞや綺麗だろうと思わる細い木々の樹幹沿いの尾根道を、頂上へと向かう。天気は相変わらず時雨れ空である。期待どおり雪は無く、眺望もきかない頂上着11:46祠の前で記念写真を撮って、頂上の避難小屋を利用しようとしたが、登山者の数が多く即下山する。しばらく下った風の弱い尾根上で昼食休憩し、同ルートを下山する。雪が解けたあとの下山路を、滑ってひっくり返らないようお互い声を掛け合いながら用心して下る。13:20 記:森本(善)</p>									
連番	1190	例会No.	一般 800	内容	三田・虚空蔵山	実施年月日	2024/2/25	担当者	山倉(康)、西村(晶)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1191	例会No.	一般 801	内容	東吉野 仏ヶ峰(668.5m)・白倉山(587.7m)	実施年月日	2024/3/3	担当者	小椋(勝)、山倉(康)、飛田	
参加者	佐野 大森 森本 村木(と) 村木(正) 杉本 安岡 駒井								参加者数	11

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	大和上市駅に集合し車に分乗、国道169号線を南下、五社トンネルを通り抜けあきつのスポーツ公園へ。駐車場で挨拶を済ませ音無川右岸の林道を歩き登山道へ。暫く登山道を歩き吉野方面から黒滝村に向かう林道に合流する。林道を少し歩き青根ヶ峰へ、山頂で少し休憩し登山道を引き返し林道から北東に延びる尾根道を林道沿いに歩くが国土地理院の地図やその他の地図の登山道とは全くかけ離れた登山道になっていく。地図では幾つかのピークを踏みつつ仏ヶ峰に行く予定だが登山道は尾根南部をトラバースしてやや下り気味に進んでいく。GPSと国土地理院の地図を頼りに進むと蜻蛉の滝から上がってくる登山道と合流する。(旧吉野街道出合い)本来なら大谷山のピークを踏む予定だが、そこもトラバースしている。旧吉野街道出合いから仏ヶ峰に向かい歩き始めるが、どうも下り気味だ。地図とGPSで自分の位置を確認しながら進む。結局は仏ヶ峰のピークも踏まず五社峠にたどり着く。峠には式内社川上鹿塩神社がひっそりと佇んでいました。本殿に手を合わせ白倉山に向う。ここからはきつい急登だ。周りの木々や雑草を頼りに息を切らせながら登山頂上に立つ、頂上からは高見山、雪をかぶった大台山脈を見ることができ疲れも癒されました。帰りは五社峠から崩れかかった九十九折の林道を下山し鶯が鳴く春の里道を歩き駐車場に向かう。駐車場で解散し帰路につきました。記:小椋(勝)										
連番	1192	例会No.	一般 802	内容	金剛山(1,125m)	実施年月日	2024/3/10	担当者	森本(善)、西村(晶)		
参加者	安岡、大森、上野、木下、山倉(康)									参加者数	7
担当者コメント	前日に、金剛山山麓では雪が降り気温も急降下。9:00 ロープウェイ乗場バス停集合。参加者全員寒い寒い独り言。久留野峠を目指し登ります。途中体温が上がり重ね着を脱ぎだすも40分ほどで峠着。快晴の中、稜線上を次の峠である伏見峠に向け気持ちよく登る。出会う登山者もほとんどなく、うっすらと雪化粧した久しぶりに冬の金剛山らしい静寂の登山道を、わいわいしゃべりながら進む。稜線上から、大和盆地や金剛山頂上を望みながら11:00に伏見峠着。あっという間の峠着です。青空の下、ちはや園地ログハウス前で休憩。その後、「ちはや星と自然のミュージアム」の横から「らくらくの道」を通り、今は廃止されたロープウェイ駅を下に眺め、青空とキラキラと陽光に輝く樹水のトンネルを抜けると11:30頃金剛山転法輪寺着。各自、胸に秘めた思いを口に出さず両手を合わせ頭を垂れる。頂上は相変わらずの金剛山らしい人混み。国見広場にて昼食を摂る。頂上も晴れており温かいと思ったが、風も若干あり震えながら休憩。段下の広場で休憩すればと反省。頂上の温度は-1℃。12:00 文殊尾根に向けて下山開始。低温でクラストした下山道を滑らないように注意しながら下るも私は1度尻もちをつきました。12:45 ロープウェイ乗場バス停着 記念写真を撮って解散。半日の金剛登山でしたが、青空と雪と美しい樹水のある静かな登山でした。記:森本(善)										
連番	1193	例会No.	一般 803	内容	(ベーシック登山No,75) 能勢妙見山(660m)	実施年月日	2024/3/17	担当者	山倉(康)、杉本		
参加者	上野 黒澤 岩本 翁長 秋田 中村 原(康) 山崎 山倉(知) 大森 山田 西村(美) 中山 佐野									参加者数	16
担当者コメント	今日の山行は北極星信仰の世界的聖地へ阪急電車から能勢電鉄を乗り継いでお参り登山です。初春の暖かさを期待し能勢電の妙見口駅に降り立ちましたが曇り空で肌寒いです。準備を済ませて8時半出発、のどかな里道を行くとほとんどの田畑周囲は猪除けの柵が施されています。駅前の食堂にも名物の牡丹鍋ののぼりがあつたように猪が多いようです。30分ほどで初谷溪谷ハイキング道の入口です、細い林道の道端にはミツマタの木が見られました。夏には(キツネノカミソリ)と言う彼岸花科のオレンジ色の花が見られます。沢沿いの道を幾度か渡渉して高度を稼ぐと10時半初谷出合いの道路に出ます、鳥居をくぐると聖域妙見さんへもう少しです。妙見さんにはいくつもの鳥居があり妙見宮とも呼ばれているようです、ここは日蓮宗のお寺ですが神仏習合といひ神様と仏さまをお祀りしており、聖域と俗界を区切るものとして鳥居が立てられ今もそれが残っているようです。11時15分、パラパラ雨が降ってきましたのでちよっと早いですけど境内にある四阿で昼食休憩を摂り、雨に合う前にと急階段が続く新滝道コースを下山12時15分ケーブルカーの黒川駅に着きました。昨年暮れに閉鎖された駅にはまだケーブルカーが残されています、おしゃれでちっちゃな車体に乗ってみたいものです。あとは車道を妙見口駅へ12時40分到着し解散としました。多数参加していただき有難うございました。記:山倉(康)										
連番	1194	例会No.	一般 804	内容	湖東 長命寺山・鶴翼山	実施年月日	2024/3/20	担当者	杉本、野原		
参加者										参加者数	
担当者コメント	雨天中止										
連番	1195	例会No.	一般 805	内容	北摂・明ヶ田尾山～鉢伏山	実施年月日	2024/3/24	担当者	野原、山倉(康)		
参加者										参加者数	
担当者コメント	雨天中止										
連番	1196	例会No.	一般 806	内容	金剛・葛城 (滝畑ダム～岩湧山～紀見峠)	実施年月日	2024/3/31	担当者	野原、山倉(康)		
参加者	前田、佐野、大森、上野、黒澤、山崎 山倉(康) 山田、西村(美)、安岡、木下、村木(と)、森本(咲)、祓川、峯岡、中川									参加者数	18
担当者コメント	気温も高くなり数日前までの寒さはどこへ行ったのでしょうか、冬用の厚いフリースから薄手のシャツに良い季節になりました。暖かい気候と澄み切った青空を眺めながら登山口に向かいました。登り始めはゆっくり、ゆっくりと 朝のフンビッチはいつもよりゆっくりと歩く事を心がけています。足の負担を軽減して体調を整えてからピッチを上げて歩くようにするのが私の歩き方です。岩湧山は展望の良い頂上で、多くの登山者も登って来てます、展望を楽しみながらゆっくりと昼食をいただきました。三合目のベンチより根古谷に降りましたが、荒れた道で降りるのに一苦労しました。紀見峠駅周辺には桜が咲き始めてました。記:野原										
連番	1197	例会No.	一般 807	内容	六甲 五助堰堤から東お多福山(697m)	実施年月日	2024/4/7	担当者	飛田、野原		
参加者	池田、大森、上野、駒井、佐野、中村、中山、西村(美)、西村(晶)、原(正)、原(康)、森本(善)、森本(咲)、武藤(体験)									参加者数	16

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	その昔の「国民体育大会大阪府予選会」は「蓬莱峡一船坂峠一東六甲縦走路一住吉川一五助堰堤」のコースで縦走競技が行われていました。それ以来の住吉川五助堰堤でしたが、当時の広い河原とは打って変わって雑草が生い茂っていました。寒気の南下で幸いにも予想よりも遅れた桜がコース全般で愛でることが叶い、柔らかい日差しの中、予定していた読図とツェルト設営を行う事ができました。読図は、要の概念図の作図、西偏角度、谷筋の右岸と左岸、磁北線、コンパスの使用方法、緯度・経度の読み取りと距離の換算及び標高の読み取りを課題地図とGPS情報を元に算出していただきました。また、1時間モデルをベースにコースの所要時間の予測も行っていました。常に現在地の確認とコース中の目標物のチェックを行い地図を読みこなせるようになっていただきたいと思います。ツェルト設営は、東おたふく山の頂上付近で緊急時の防風対策時の使用法とフォアキャスト・ビバーク時の設営を行いました。山では何が起こるか分かりません、いざという時に命を守るに必要な装備の持参とその使用法に習熟しておくことの大切さを理解してくれればと思います。記:飛田									
連番	1198	例会No.	一般 808	内容	二上山(雌岳)(474m)(故野口秀也さん、故樺田克彦さん追悼登山)	実施年月日	2024/4/14	担当者	森本(善)、小椋(勝)	
参加者	中山、村木(正)、村木(と)、山倉(康)、山倉(知)、杉本、三原、西村(晶)、西村(美)、岩本、松本、祓川、西向、小椋(美)、佐野、大森、島野、池田、安本(昭)、安本(嘉)、上野、神阪、秋田、翁長[当麻寺まで]								参加者数	26
担当者コメント	9:00 初夏を思わせるような2日続きの晴天のもと、駅より当麻寺へつづく参道をのんびりと歩く。寺に近づいたころ、日本にいか所しか現存しない東塔、西塔の両塔が揃った三重の塔が寺の樹間に見え隠れする。しばらくすると仁王門があらわれ境内に入る。今日は、当麻寺の「聖衆来迎練供養会式」の日で、境内では懐かしい露店が店を開く準備中。また、会式の為の本堂へつつづく来迎橋(仏さんと中将姫がとおる橋)が設置を済ませていました。境内から北門を通って境外に出て、奥の院の裏にある公園が登山口です。さっそく、麻呂子山へ登り汗が出始めたころ、尾根上に着く。左に道をとり麻呂子山(213m)着。視界はなく、記念撮影後、もとの尾根上の分岐にもどり、そのまま原岳に向う。ひたすら暑い登山道を登る。途中、こんなに低い里山なのに、本格的な急登があり息が上がる。30分くらいで「姫風の坂」という青空にくっきりと浮かぶ、二上山と大和盆地が見渡せる涼しい展望台につき休憩。約20分で原岳(約380m)に到着。相変わらずの暑さの中、時折、ひんやりとした風がさわやかに吹いていました。原岳から約30分で岩屋峠着。峠から二上山の雌岳と雄岳の鞍部である馬の背着。休憩後、最後の登りである雄岳(517m)に向かう。12:10雄岳頂上着。頂上では、泉州山岳会創設期の一人であり会員番号1番で大峰山等の登山書籍を執筆しておられた野口秀也さん、そして豪快な登山をする樺田克彦さんを偲んで、両氏の写真と秋田さんと小椋代表から、野口さんからの泉州山岳会乗鞍事故での貴重な助言や、樺田さんの豪快な登山姿勢の思い出話をしてもらいました。その後、在りし日の登山話に花を咲かせながらゆっくりと昼食をとり二上山神社に向け下山。二上山神社から右手に進み、奈良盆地を左手に眺めながら里の道を歩き、途中、EPE会員の母校である当麻小学校の前をとおる当麻寺に到着する、寺では「聖衆来迎練供養会式」の準備も済み露店も店開きをし、席取りの人も含め大勢の参拝者が会式の開始を待っておられ大混雑が予想された。14:30当麻寺境内にて解散する。記:森本(善)									
連番	1199	例会No.	OP 384	内容	大峰 鉄山(1,563m)、鉄山平	実施年月日	2024/4/20	担当者	小椋(勝)、杉本	
参加者	上野・大森・安岡・中原(正)								参加者数	6
担当者コメント	日曜日は雨の予報なので行けるところまで行こうかと考え下市口に集合。下市口から車に分乗し大川口に。川迫川はアマゴの解禁日でたくさんの釣り客の車で道路がいっぱいの中、曲がりくねった細い国道を対向車を気にしながら車を走らせる。車窓から見る山々は山桜が咲きほころび早春の日差しに照らされ微笑んでいるように輝いていました。大川口は車も少なく車を止めることができ準備をして、取りつきに行くがいきなり急登が始まる。わかっていたとは言えキツイ！息を切らせながら登り鉄山直下のザング平に着く。少し休憩をして鉄山へ向かう。ここからの急登は這うように登って行く。十数年前 TENT を担いで登ったのを思い出して TENT 山行はもう無理と思いながら鉄山の山頂に着く。鉄山からはいきなりの激下り、川迫ダムあたりから見る鉄山はおむすびのような形をしているがまさに通ってきた道はアップダウンが激しくとがった山だ。修覆山に向かう登山道は落ち着いた登山道で景色もよい。途中1699mの鉄山平に着き、時間と体力と天候を考えここで引き返すことにする。鉄山平から見る大峰の山々は神々しくいつまでも飽きない風景でした。記:小椋(勝)									
連番	1200	例会No.	一般 809	内容	ベーシック登山No.76 中山連山	実施年月日	2024/4/21	担当者	翁長、山倉(康)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1201	例会No.	一般 810	内容	金剛山(1,125m)	実施年月日	2024/4/28	担当者	西村(晶)、翁長	
参加者	大森、上野、佐野、中原(俊)、山田、安岡、島野、山倉(康)、山倉(知)、西向、岩本、森本(善)、池田、村田、木下								参加者数	17
担当者コメント	黒梅谷林道よりカトラ谷に入ると前後に大勢の登山者にびっくりです、追い立てられるように1時間程登るとリソウが今年も咲いてました。道の両岸に溢れんばかりに斜面いっぱいに白いお花が満開です、心が癒されます。ヤマシヤクヤクも咲いていましたが、来週ぐらいが見頃ですかね。国見城跡の草地にシートを広げて昼食です、ヨーロッパ・アルプストレッキングの昼食も草地に座り込みのんびりと風景を眺めながら食事をした事を思い出しました。伏見峠より久留野峠まで咲き始めた山ツツジを眺めながら静かな山道を歩きました。記:西村(晶)									
連番	1202	例会No.	一般 811	内容	金剛・葛城 2	実施年月日	2024/4/29	担当者	西村(晶)、山倉(康)	
参加者	前田、佐野、上野、山倉(知) 松本、森本(善)、西田、中川、中原(俊)、中原(正)、村木(と)、峯岡、村木(正)、堀、有永、渡辺								参加者数	18
担当者コメント	昨日に引き続き今日も金剛山に登ります、岩湧山から二上山まで4回に分けて山道を歩くコースの今日は2回目です。昨日と違い静かな山歩きが楽しめそうです、紀見峠駅からタンゴ山までの標高差が520m位で、ここまで登ると後半は5つの峠を越えていけば金剛山まで長い尾根道が続きます。木道の階段を登り終えて額の汗を拭きながら一呼吸、見上げれば新緑の木々が迎えてくれる山道が好きです。次回はこちらから大和葛城山まで山歩きを楽しみます。記:西村(晶)									
連番	1203	例会No.	一般 812	内容	金剛山(1,125m)、清井山(809m)	実施年月日	2024/5/3	担当者	前田、杉本	



# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

参加者	山倉(康)、佐野、山田、山崎、中山、小椋(美)、池田、西田、中川、祓川、松本							参加者数	13
担当者コメント	昨年末に金剛バスが廃止になり、富田林駅から千早へは途中で乗り換えが有るので登山者は少なかった。森屋バス停で下車して、ちはやあかさか道の駅からスタートした。ここから山頂まで約1000mの登りで、金剛山への一番長いコースである。山道に入って30分程で上赤坂城跡に着いた。南河内から大阪市内迄見渡せる絶景の展望台だった。登りながら、先日西村さんに教えてもらったコシアブラの木を探したが、見つからなかった。標高800m位から清井山へ行く道が分からない。目星を付けて急斜面を藪漕ぎしながらトラバースをして行った。杉林の展望のきかない、清井山山頂に到着した。誰もいない静かな山頂。昼食を取った後、尾根沿いを登ってセト手前の道に出た。ここからは人が多くなった。山頂周りの木々は新緑に輝いてきれいだった。15時過ぎ金剛山頂に到着。休憩後寺谷を下った。ロープウェイバス停に着いたらバスは出た後、1時間以上の待ちと思ったら臨時便が出てほっとして、帰路についた。記:前田								
連番	1204	例会No.	一般 813	内容	蓬莱峽～東おたふく山(697m)	実施年月日	2024/5/5	担当者	山倉(康)、榊田
参加者	中原(俊) 大森 島野 駒井 河合(泉州山岳会) 佐野 松本 山倉(知) 西村(晶) 西村(美) 原(康) 原(正) 中村 中原(正) 池田							参加者数	17
担当者コメント	ゴールデンウィーク中に企画された日帰り山行4件の内今日が最終です。いずれも好天に恵まれ今日も暑さが見込まれましたが少し風があり爽やかな日和です。しるべ岩バス停を降り挨拶を済ませて対岸の右岸へ橋を渡ります、以前(40年ほど前の話)はこんな橋はありませんでした。河原へ下りて上流へ向かった記憶があります、昔と様子が違いますがとりあえず右岸へ渡ると踏み跡がありそれを辿ります。途中左へ入りすぎて枝谷に入りましたが戻ってみると座頭谷と書かれた小さな看板谷に出会い、赤い目印もありました。以後は目印とGPSを照らし合わせながら沢芯を辿り大きな堰堤を右岸から乗り越え河原で小休止、ここまでスタートから30分ほどです。谷の詰めからは右岸から左岸へ巻くような急登を約30分登り林道に出ました。この先には見覚えのある閉鎖された養蜂所がありました。舗装道路を横切り樹林帯を約40分赤い目印と踏み跡を頼りに登ると船坂峠へ続く縦走路と11時過ぎに合流します。あとは縦走路を1回の昼食休憩をはさんで石室殿を13時前に通過し、13時50分今日の目的地、東おたふく山着、登山口バス停に14時20分下山し解散としました。本日も多くの方に参加していただき有難うございました。記:山倉(康)								
連番	1205	例会No.	OP 385	内容	上越国境 巻機山(1967m)	実施年月日	2024/5/10～12	担当者	山倉(康)、森本(善)
参加者	上野 村木(と) 中村 岡部 大森 有永 杉本 前田 原(康) 原(正) 小椋(美) 安岡 森本(咲) 西野							参加者数	16
担当者コメント	5月10日(金) 大阪～巻機山山麓清水 民宿泉屋泊 5月11日(土) 民宿にお願いして5時に朝食をすませスタート地点の桜坂駐車場へ向かいます。全員集合して6時入山、しばらく新緑の樹林の中を1時間半ほど登ると残雪が出てきました。8時6合目で休息、ヌグ沢をはさんで天狗岩が望めます、その先の尾根上部には青空を背景に割引岳が確認できました。この位置からはまだ巻機山は確認できません。10時8合目着、ここまで登ると樹林もなくなり展望が開け、谷川岳とその左に富士山、反対側には火打山と妙高山、遠くは北アルプスまで遠望出来ます。9合目の前巻機山には別名ニセ巻機山の標識があります、ここからは巻機山の稜線が全貌できます、勾配も緩くなったすがすがしい稜線を歩き10時50分避難小屋に着きました、なかなかいいペースです、しばらく階段を登り頂上に続く雪渓に出て11時30分頂上標識のあるピークに登り着きました。かつては修験者による登拝も盛んにおこなわれていたようでこの頂は御機屋(おはたや)と呼ばれ機織りのお姫様が住むと言われていました。本峰へはここから東へ稜線を10分ほどでたどり着きました、ケルンがあるのみです。360度に展望が開け、越後3山、谷川岳、富士山、苗場山、火打妙高、今日のはかすんで見えませんが佐渡島から日本海まで見渡せます。頂上稜線には草原が広がり多くの池塘が見られました。しばらく展望を楽しみ12時下山開始、雪渓の下降は慎重に、下部の石だらけの道は転ばないように注意し15時40分駐車場に下山しました。9時間半の行動皆様お疲れさまでした。5月12日(日) 民宿を後にして帰阪。記:山倉(康)								
連番	1206	例会No.	一般 814	内容	六甲・摩耶山(読図講習)	実施年月日	2024/5/12	担当者	野原、小椋(勝)
参加者	駒井、島野、中原(正)、池田、祓川、佐野、翁長							参加者数	9
担当者コメント	6年ぶりの神戸登山研修所、施設利用申込方法も研修所直接から神戸市役所のネット経由に変更されていました。結構需要があるようで早期申し込みが肝要です。今回使用した資料は前回(6年余り前)の読図講習に使用したものを、開催前日まで手を加え全面修正したものを使用しました。配布した37頁の小冊子は「口頭説明なしでも読めば理解できる」ことを狙って作成しています。また実践登山に使用する地形図として国土地理院からダウンロードして、コンビニでプリントアウトした「電子地形図25000」を配布しました。今回の講習対象者は地形図を読めない人という前提で進めました。先ず地形図の入手方法から始まり、真北と磁北、地形図と登山地図の違い、概念図の作り方、コンパスの説明、磁北線の引き方、地図記号、コンパスの構え方等説明。その後読図の核心説明に入り地形図の正置(整置)、現在地確認方法、進行方向の決定、山座同定、GPSの基本と限界、各種のGPSアプリ説明、隠れた小ピーク(説明と練習問題回答)、電子地形図の入手方法・・・等幅広く説明させていただきました。地形図とコンパスを使った読図ができないと、登山地図やGPS頼りの登山となってしまう。ここ数日、太陽表面の爆発によって引き起こされた「太陽フレア」による「磁場の乱れ」が大きなニュースになっています。北海道だけでなく京都や兵庫の日本海側でも見られたというオーロラはロマンチックですが、この「磁場の乱れ」によってGPSは大きな影響を受けます。GPSが使えない状態、表示誤差が大きな状態になっても慌てないように地形図とコンパスは使えるようになっておきたいものです。一通り午前中の座学を終え昼食。昼食後、実践登山に移ろうと研修所を出ると無常にも雨。歩くだけの登山であれば少々の雨なら実施しますが、地形図やコンパスを使った講習は出来ません。残念ですが中止と決定しました。今回できなかった実践登山はルートの一部変更して後日改めて追加実施します。乞うご期待。記:野原								
連番	1207	泉州山岳会 慰霊の日	内容	堺市立公園墓地・八ヶ峰霊園 泉州山岳会慰霊碑前	実施年月日	2024/5/19	担当者		
参加者								参加者数	
担当者コメント	慰霊の日 OB会員、山岳会会員、EPE会員 総勢52名が集まり雨の中清掃し献花、黙祷後、解散しました。解散後も雨の中、昔話に花が咲き心残りの中、慰霊碑を後にしました。記:小椋(勝)								
連番	1208	例会No.	OP 386	内容	熊野参詣道 小辺路	実施年月日	2024/5/23～26	担当者	西村(晶)、山倉(康)
参加者	大森、黒澤、中原(俊)、山倉(知)、駒井、西村(美)							参加者数	8

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>高野山と熊野を結ぶ道が高野街道で、小辺路とも呼ばれ、紀伊半島の中央部を縦断する十津川路と共に集落間を相互に小道で結び往来していたが、やがて熊野詣の信仰の道として多くの修験者や巡礼者が通行するようになった。明治の中頃までは十津川や奥高野の人々の塩や日常必需物資の輸送路として、生活道路の役割を果たしていた。[世界遺産 熊野古道を歩こう]より抜粋 筆者 泉州山岳会会員 故 野口秀也先輩]高野山の千手院橋バス停脇から第一日目がスタートします、4日間をかけて熊野本宮大社まで小辺路を歩きます。伯母子岳1344m・三浦峠1080m・果無峠1114mのピークと峠を越えて4日間も山道を歩くのでリックの重さは7Kgに抑えるようにしました。高野山から今西辻までの山道はなだらかなアップダウンの道が続きますがアスファルト道は疲れます、大股バス停まで標高差300メートルの下り道で一汗かきました。10日前の天気予報では連日の雨予報でしたが、お天気は晴れる予報に変わりました、良かったです。2日目 伯母子岳までの標高差650mです、急な登り坂が続きますが真っ赤なツツジが頂上まで導いてくれます、頂上からの展望も良くて大峰の釈迦ヶ岳を望む事ができました。道筋には古い石仏や道標、また茶店跡や旅籠跡地が残っています。三浦バス停より宿泊先の農家民宿山本さんに向かいました、心のこもった夕食、朝食をいただきました 昼食のお弁当も美味しかったです。3日目 三浦口バス停まで送ってもらいました、三浦峠までの標高差710mです 今日急な登りが続きます、石畳の古道が続きます。三浦峠まで2時間20分で到着、皆さんがんばりました。予定では西中バス停に13時20分頃に到着して、14時2分発のバスに乗って十津川温泉の予定でしたが国道42号線崩土による通行止めの為、川合神社より迂回路の舗装道路を2時間30分歩く事になりました。宿泊先15時30分着、温泉に浸かって疲れをとりました。4日目 果無峠までの標高差650m 最終日も急な登りが続きます 3時間で峠まで登りきりました 皆さんの元気さには感動いたしました。果無峠から八木尾のバス停まで急な下り坂です。難行苦行の修行ですかね 苦しい事ばかりではなく、伯母子岳や三浦峠からは大峰山や果無山の展望は素晴らしいです、緑の木々に真っ赤なツツジが映える風景の山歩きでした。記:西村(晶)</p>									
連番	1209	例会No.	一般 815	内容	京都一周トレイル(東山コース1<伏見・深草ルート>)	実施年月日	2024/5/26	担当者	飛田、杉本	
参加者	池田、岩本、中川、中山、西田、長谷川、前田、三原、山田、山崎								参加者数	12
担当者コメント	<p>伏見稲荷は予想通りインバウンド観光客が本殿から千本鳥居への道は渋滞が出るほどの込み具合でした。京都トレイルのコースには入ってはいませんが稲荷山(233m)を登頂し、逆回りとなる東山コース&lt;伏見・深草ルート&gt;に入りました。五月の爽やかな風を感じながら古都の外郭を仁明天皇陵-大岩山-伏見桃山城と結び伏見桃山陵の敷地を出た処で解散となりました。読図は、磁北線、コンパスの使用、緯度・経度の読み取りと距離の換算及び標高の読み取りを課題地図とGPS情報を元に算出し、1時間モデルをベースにコースの所要時間の予測も行っていました。記:飛田</p>									
連番	1210	例会No.	一般 816	内容	六甲山 住吉道～有馬温泉	実施年月日	2024/6/2	担当者	梶田、小椋(勝)	
参加者	中嶋、小椋(美)、山田、山崎、大森、祓川、上野、峯岡、前田、西村(晶)								参加者数	12
担当者コメント	<p>六甲山はEPEにとっては、ホームグラウンドです。何度も登られたことでしょう。山は何度登っても新鮮で飽きることがありません。今年からEPEのたくさんの方々と一緒に山行に参加させていただいて、改めて山の楽しさを実感しています。縦軸に山登りの難易度と頻度をとり、横軸に年齢をとり、人の一生の山登りをグラフにすると、富士山のような山形型になります。この教えは、紀伊本さんが言われた事を翁長さんから教わりました。だから山登りは、一生続けられるものなのです。EPEの山行計画を作らせていただいて、今まで計画したことのないような山行を考えないといけません。これから頑張って楽しい山行を考えていきますのでよろしくお願いいたします。記:梶田</p>									
連番	1211	例会No.	一般 817	内容	リトル比良 岳山～岩阿沙利山	実施年月日	2024/6/9	担当者	杉本、前田	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1212	例会No.	一般 818	内容	六甲・大岩ヶ岳 読図講習	実施年月日	2024/6/16	担当者	野原、森本(善)	
参加者	岩本、前田、大森、中原(正)、中村、佐野、翁長、原(康)、山崎、山田、中山、島野、池田								参加者数	15
担当者コメント	<p>今回はGPSをメインとした読図講習。大阪駅で本日使用する地形図3枚を交付、道場駅までの電車内でスマホのGPSアプリにルート設定をしよう。今日初めてGPSアプリを使う方もおりました。メンバーの使用したアプリは「ヤマレコ」と「YAMAP」の二つ。今回は「ジオグラフィカ」や「山と高原地図」等のアプリを使うメンバーはいませんでした。道場駅で簡単に説明後スタート。スタート直後に有馬警察署のパトカーに呼び止められる。何かかと思うとメンバーの人数を聞かれ、写真を撮っていかと許可を求められる。何かの広報資料に使うようだ。顔は写さないということなので了解しました。ルートは登山口の東山橋から反時計回りで大岩ヶ岳まで登り、別ルートで東山橋に戻ってくるという行程です。前回(6年半前)のルートを大幅に変更、メンバーを4チームに分けて適宜交代、トップを任せました。大岩ヶ岳を読図講習の場を選んだ理由は、地形図に表示された分岐に加えて表示のない脇道がある。地形図に引かれた登山道に適度に誤りがある。ルートの多くが樹林帯の中で視界が限られている。転倒や滑落などの危険性が少ない。余裕を持って講習時間を取れること等です。今回はGPSをメインに使いましたが、分岐等では地形図とコンパスを使った講習、特に「進行方向の確認」を重点的に実施しました。GPSも地形図とコンパスを使った読図が出来なければ使いこなせません。また大岩ヶ岳頂上では1/50000地形図を使って山座同定講習を実施しました。今回の講習で「今までコンパスは毎回持っていきが使ったことがない。コンパスの使い方が始めて分かった。」という意見がありました。人間は忘れる生き物です。忘却曲線というのがあって一旦覚えたことも20分後には約50%、1時間後には約60%、翌日には約70%忘れていくそうです。忘れることは人として仕方ありませんが、何度も繰り返すことによって徐々に記憶が定着していきます。安全登山のためにも心したいと思います。記:野原</p>									
連番	1213	例会No.	OP 387	内容	銀杏峰	実施年月日	2024/6/22～23	担当者	小椋(勝)、村浪	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1214	例会No.	一般 819	内容	金剛山	実施年月日	2024/6/23	担当者	西村(晶)、森本(善)	
参加者									参加者数	



# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	雨天中止									
連番	1215	例会No.	一般 820	内容	ベーシック登山No.77 六甲・ごろごろ岳	実施年月日	2024/6/30	担当者	山倉(康)、西村(晶)	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	1216	例会No.	OP 388	内容	北海道 羅臼岳(1,660.4m)、斜里岳(1,535.8m)、雄阿寒岳(1,370.4m)	実施年月日	2024/7/5~9	担当者	杉本、小椋(勝)、前田	
参加者	佐野、上野、原(康)、大森、中原(正)、中原(俊)、駒井、小椋(美)、村木(と)、松本									
参加者数	13									
担当者コメント	<p>7/5 曇り 女満別空港でこれからの登山にワクワクしながら貸切バスで今夜の宿泊地「ホテル地の涯」に向かう。大阪からここまでは7時間半一日がかりの遠い地だ。途中のコンビニで明日からの行動食補充をする。7/6 曇のち霧雨強風のち曇 北海道の朝は早い午前3時50分頃には日の出を迎える。5時にホテルを出発し木下小屋前で入林届を済ませていよいよ登山開始。羅臼平まではクマの出没頻度が高いと言われている所を通るため緊張が続く。羅臼岳は花百名山に選ばれて登山道の横にはたくさんの花が咲いている。それが登山の疲れを癒してくれる。大沢の雪渓はこの時期にはアイゼンが必要であるが今年は登山道には全く雪がない。この頃より霧雨と風が強くなりカッパを被る。羅臼平からはまだ立って歩ける程度の風雨であったが、岩清水からだんだん風も強くなり段差のある大岩の登りで体力が落ちるようになる。羅臼岳頂上は暴風雨で吹き飛ばされるぐらいで立ってられない。数人が立てる程度の広さであると思われるが、全体が見えない。集合写真も撮れない状態であり早々に下山する。登りで体力を消耗した為遅々として下山が遅れる。16時にホテルに到着し長い1日であった。7/7 曇 斜里岳の登山口を9時30分出発する。登山口までホテルより貸切バスで2時間かかった。最近の運転手の労働環境の変化で早朝からバスの迎えが出来ないらしくこの時間になった。これが今日の登山に影響する。一の沢の明るい樹林帯の中、数回渡渉し下二股に着く。ここから旧道コースの沢に行く予定であったが前日の疲れもあって沢を登れば時間が掛かるし危険であると判断し、新道コースの尾根道を登ることに変更する。新道コースに変更しても登山道は急登で滑りやすい。熊見峠まで登ると視界が開けると山頂は雲に隠れている。時計を見ると山頂を目指すには時間が足りず竜神ノ池で引き返すことにする。竜神ノ池は藻があるものの透明度は抜群で池に入りたような気持ちにさせてくれる。熊見峠からの下りは足元が滑りやすく、木の枝が低く張り出し頭をぶつけてしまう。下二股まで降りてきてもまだ沢の下りがあり気が抜けない。16時に登山口で下山、待機中のバスでホテルまで2時間だ。7/8 曇のち雨 今日三座目の雄阿寒岳だ。登山口はホテルからタクシーで10分ぐらいで着く。歩き出しは太郎湖、次郎湖と楽しい湖巡りを楽しむ。登山者も3人に会っただけで静かな登山になった。等高線は詰まっているもののジグザク道で緩やかな登山道で登りやすい。阿寒湖や雄阿寒岳を見ながら楽しい登りが続く。7合目まで登ると山頂が見えだすが、雄阿寒岳の山頂は旧跡が東西に3つあり、見えているのは西の爆裂火山山頂で目指す山頂ではない。ここから山頂を巻くようにして最後に一旦下って雄阿寒岳へ登り直す。山頂に立つと阿寒湖の反対側のバンケター、ペンケターが眼下に望まれる。最後の山になってやっと雲のかかっている山頂に立てることができた。予報では昼頃から雨が降ると出ていたので早々に下山開始する。登山口まであと1時間というところで雨が降り出す。三日間とも良い天気ではなかったが、雨で登山を中止することもなく全員で登れたことは良かったと思います。7月といえば北海道では天気も安定し1年で一番爽やかな時期で、登山を十分楽しめると考えてこの時期を選んだ。しかし、予想に反し気温が高く岩尾別温泉の旅館でクーラーがない部屋では寝苦しい夜を過ごすことになった。北海道はヒグマの生息地でありこれまでの駆除一本鎗の対策から共存策へと方向転換させ、人を襲うことはないと言われたが、私たちにとっては怖い存在である。大阪でクマ対策の学習をし、現地では鈴、笛、ペットボトル等を身に着ける。羅臼岳登山ではクマスプレーもレンタルできて少しは気持ちのゆとりが出る。また、3日連続の登山で不安があったが皆さんよく頑張り落後者もなく登ることができました。記:杉本</p>									
連番	1217	例会No.	一般 821	内容	高野参詣道 黒河道	実施年月日	2024/7/7	担当者	飛田、山倉(康)	
参加者	中村、中川、森本(善)、山倉(知)									
参加者数	6									
担当者コメント	<p>連日、熱中症アラートが発令される中で、橋本駅で参加者を心細く待つ内に勇者が現れました。橋本橋南詰を右折して370号線東進すればよかったものを371号線のショートカットからの道を選んだ為に最初から前途多難な道迷い、黒河道のコースに入ってからコマメな水分補給を心掛けながら鉢伏の井戸、明神ヶ田和、わらん谷、市平橋から猪除けの柵に「土砂崩れ、通行止め」の標識が現れ、思案するも強行することに決断しました。コース中の丸太橋が朽ちかけているモノが散見されたので通行の際は慎重を期して下さい。久保小学校跡の森の童話館では館長から冷え冷えのお水のオモテナシで大感激、ここで、黒河道から外れ高野下への下山を決断しました。参加いただいた方々、暑い中お疲れ様でした。記:飛田</p>									
連番	1218	例会No.	OP 389	内容	北アルプス 奥大日岳(2605.9m)~大日岳(2498m)	実施年月日	2024/7/12~14	担当者	山倉(康)、森本(善)	
参加者	森本(咲)、佐野、中村、村木(と)、岩本、大森									
参加者数	8									
担当者コメント	<p>7/12 雨の中難波に集合し前泊地の立山山麓ゲストハウスへ向かいました、到着した頃には小降りになっていましたが稜線は雲の中で明日の天候が心配です。7/13 梅雨の真ただ中なのに今日は奇跡的に晴れています。アルペンルート6時50分発のweb切符を確保してましたのでこれに合わせてゲストハウスを出発、立山駅では当日切符購入者が長い列を作っていました。ケーブルカー、高原バスを乗り継いで8時室堂着。準備を済ませて遊歩道を雷鳥平へ向かいます、快晴で大日稜線から立山連峰と周囲の山々を見渡せます。誰かが北海道も良いが北アルプスの空気は格別のものがありますねーと言っています。雷鳥平で一休みして雷鳥沢を渡り40分ほど登ると奥大日へ続く稜線に出て剣岳が迎えてくれました。久しぶりにまじかで見えるツルギはいいですね、ここからは常に右後方の剣岳を見ながらの稜線歩きが始まります。12時奥大日岳着、記念撮影を済ませ3時前に大日小屋に着きました。明日早朝に大日岳を往復する予定でしたが天候が思わしくないので今日大日岳を往復することにしました。15時15分頂上着、道中では雷鳥が4~5羽見られ、お花も多く見られました。7/14 今日は天気が悪そうです、雨こそ降っていませんがガスに覆われています。朝食を済ませ6時過ぎに下山開始、休憩をはさ8時30分大日平小屋まで下りてきました、このころから雨が降り始め牛の首の急下降が始まるころからは本降りとなり足元が悪いのでゆっくり慎重に下り11時過ぎ称名滝登山口に無事下山しました。皆様お疲れさまでした。記:山倉(康)</p>									
連番	1219	例会No.	一般 822	内容	奈良・三輪山、大神神社	実施年月日	2024/7/14	担当者	榊田、飛田	
参加者										
参加者数										

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	雨天中止									
連番	1220	例会No.	一般 823	内容	伯母谷視 歴史探訪シリーズNo.54	実施年月日	2024/7/15	担当者	小椋(勝)、杉本	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	1221	例会No.	一般 824	内容	京都北山 棧敷ヶ岳(895.7m)	実施年月日	2024/7/21	担当者	杉本、野原	
参加者	中村、前田、中山、上野、大森、三原									
参加者数	8									
担当者コメント	北大路駅前からのもくもく号の乗車は私たち8人だけで貸切状態です。君ヶ畑岩屋橋バス停で下車して志明院までの舗装道路も汗が流れ出てきてこの先暑さが心配になる。街中は熱中症警戒アラートが発令されている。京都北山はヤマヒルと暑さで有名な山だ。志明院から薬師峠までは沢中を右に左にと徒渉を繰り返す。近年の北山は人気がないのかルート上の踏み跡が薄くルートファインディングが必要になる。沢中のルートなのでまだ暑さは気になるほどのことはない。薬師峠からは尾根道になるが沢道のお土産ヒルが服の中から顔を出す。薬師峠から2時間で棧敷ヶ岳に到着。山頂は木陰に入ると暑さはしのげる。惟高親王が京の都を懐かしんだと言われる眺望は今、樹木が茂りあまり良くない。薬師峠まで戻り大森キャンプ場へ下る登山道も林道も最近の風水害の影響で完全に消失している。植林されて下草が茂っていないので尾根上を忠実に下ることにする。大森キャンプ場に到着し、ここから舗装道路を酷暑の暑さを実感してバス停に到着、解散しました。記:杉本									
連番	1222	例会No.	一般 825	内容	京都 夜泣き峠～貴船山(716m)～奥貴船神社	実施年月日	2024/7/28	担当者	森本(善)、山倉(康)	
参加者	池田、島野、山倉(知)、西村(晶)									
参加者数	6									
担当者コメント	8:00 早朝からうだるような酷暑のなか、汗を拭きながら京阪 京橋駅に集合。京都叡山鉄道。無人の「二の勢」駅で下車。ホームから貴船川に向かい坂を下る。9:20川のためとで登山支度を整え、橋を渡らず右岸を堤防沿いに上流に向け歩くと無人の踏切着。山側に渡り「夜泣き峠」に向け汗を吹き出しながら急登を登ること約30分で峠着。峠からは貴船山に向け、起伏の少ない尾根上を登る。時おり風のおり道に会い、貴船川からのさわやかな涼風に癒される。約40分で447Pを超えた鞍部から、尾根上を忠実にたどるコースを登る。しばらく登ると567P着、貴船川を挟んで対岸の鞍馬山に続く山並みが見渡せた。ピークよりなお汗を吹きだしながら貴船山着(716m)。祠もなく小さな山頂名が記載された木札が、寂しげに積まれたケルン(?)の上ののっていました。(三角点のあるピークは699.4m、北に716mのピークがあります。三角点と北のピークを貴船山と云うそうです。)頂上にて昼食休憩。ここまでで出あった登山者は2名のみでした。あまりの暑さのためか。その分、静かな暑い登山です。頂上から滝谷峠(北)に向け緩やかな尾根を下る。約15分下った尾根上の分岐(約672m)から東側に伸びている急な枝尾根を貴船川沿いの奥貴船神社近くに向かって下山する。下り当初は、踏み跡を辿ることはできたが、標高にして三分の二ほど下ったところで尾根全体の樹林帯が倒壊(崩壊)し、さらに谷を埋めていて下降が出来ないと判断。分岐手前(約592m)近くまで再度登り直す。そこから右(北)に下っている谷筋を辿ると滝谷峠からの下山道である貴船川源流沿いの一般登山道に合流する。その後車道と合流し、奥貴船神社の山門前で頭を下げ、外国人でいっぱい雑踏の貴船川床料亭街をウインドショッピングしながら貴船バス停着。今日、最も暑かったのがこのバス待ち時間でした。15:00叡山鉄道「貴船口駅」で解散した。今回、鞍馬山は登れませんでした。もっと涼しい季節に同じコースをたどり鞍馬山まで行きたいものです。この酷暑の中、参加者の方お疲れ様でした。記:森本(善)									
連番	1223	例会No.	OP 390	内容	黒部川源流と雲の平	実施年月日	2024/8/1~4	担当者	山倉(康)、森本(善)	
参加者	中村、大森、山倉(知)、小椋(美)、上野									
参加者数	7									
担当者コメント	8月1日 大阪を早朝(真夜中)に出発し、朝9時半には折立に着きました。登山口の駐車場はすでに満タンで臨時駐車場に止める状況です。今日は太郎平までののぼりです。大阪よりは涼しいがスタート地点ではまだ標高が低いので暑い。樹林を抜けるとカンカン照りです、ゆっくり登って14時30分太郎平小屋着。ここは薬師岳、黒部五郎方面、雲の平方面への基地敵地で小屋は満タン状態でした。8月2日 今日の行程は長いので4時40分小屋を出発。約2時間の下りで薬師沢小屋着、沢靴に履き替えて今回のメインコースへの出発です。歩き出していきなり大きなイワナが出迎えてくれます。私は過去3回この黒部源流域を訪れましたが今回の水量はかなり多いようでした。股下程度でのヘツリや渡渉で行けたところも、高巻きを強いられるところが4か所、予想以上に時間がかかって14時ごろに祖父沢合い着、祖父沢に入ってから小滝の連続で急激に高度を上げてゆきます。苦しい登りは源流域まで続き、源流の雲の平テント場到着は19時になってしまいました。夕闇迫る木道を歩き雲の平山荘に着いたのは20時になりました、15時間の行動でしたが小屋の手厚いもてなしに感謝して夕食を頂きました。8月3日 6時小屋発、今日も快晴で長い1日になりそうです。なだらかな雲の平の風景を眺めながら歩き樹林帯からは一気に薬師沢合いまで下ります。道は苔むして滑りやすくなっていますのでゆっくりくっだつて9時30分薬師沢小屋着。ゆっくり休んで太郎平までの登りに備えます。汗をふきふき4時間登りようやく13時30分太郎平小屋着。あとは折立までの下りのみです。歩くのが嫌になるほど下って18時折立に全員たどり着きました。今日も12時間皆様よく頑張りました。後はゲストハウスピステにお世話になりビールを楽しみながら過酷な3日間を振り返り夜更けまで楽しみました。記:山倉(康)									
連番	1224	例会No.	一般 826	内容	国見山・交野山	実施年月日	2024/8/4	担当者	西村(晶)	
参加者										
参加者数										
担当者コメント	熱中症警戒アラート・中止									
連番	1225	例会No.	一般 827	内容	金剛山・ツツジオ谷	実施年月日	2024/8/18	担当者	西村(晶)、前田	
参加者										
参加者数										
担当者コメント	熱中症警戒アラート・中止									

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

連番	1226	例会No.	一般 828	内容	金剛山・カトラ谷	実施年月日	2024/8/25	担当者	森本(善)、西村(晶)	
参加者	前田、有永、上野、小椋(美)、佐野、原(正)、原(康)								参加者数	9
担当者コメント	台風10号の接近の前に登ってしまおうと例会を実施。当日の朝、金剛山方面は青空でした。しかし、大阪北部はドシャ振りの雨との事。9:00金剛登山口バス停前集合。今日の暑さを覚悟し出発する。カトラ谷までは若干の日差しもありましたが、谷に入ってから木々に覆われ時おり渡渉しながら高度を上げるにつれ気温が下がり、静かな(他の登山者とは一度も出会うことなく)そして汗をかきながらも思ったより涼しい谷歩きです。休憩時には溪流の音に癒される中、涼風が吹きぬけほっとするひと時を味わいました。カトラ谷が終わる頂上直下、春には満開であろう二輪草のお花畑跡に到着。春の情景に思いを馳せ最後の急登にかかる。11:30 汗びっしょりで頂上広場に到着。登山者の少ない頂上広場で昼食をゆっくり摂り下山にかかる。事前の計画では久留野峠経由でしたが、昼過ぎから降雨との予報もあり、再度涼しさを求めて寺谷から下山することにしました。下山口は急でしたが、しばらくすると緩やかな寺谷沿いの流れに沿って第三ベンチ、第二ベンチそして第一ベンチを過ぎ、12:45に伏見峠からの下山路に合流し、その後夕立があり速足に13:00ロープウェイ前バス停着。ここで解散しました。参加者の方お疲れ様でした。記:森本(善)									
連番	1227	例会No.	一般 829	内容	京都・海住山寺・三上山	実施年月日	2024/9/1	担当者	梶田、飛田	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1228	例会No.	OP 391	内容	中央アルプス 風越山・経ヶ岳	実施年月日	2024/9/7~8	担当者	小椋(勝)、杉本	
参加者	上野、大森、安岡、小椋(美)、北山、中村								参加者数	8
担当者コメント	当初中村さんのご厚意で勤め先の別荘を借りる予定でしたが付近に熊が出没危険なので宿泊はやめてほしいと管理者からの連絡があり急遽、民宿を予約し2泊を1泊にし例会を実施しました。9月7日 中津川インターから国道19号線を経て上松の町から町道に入り登山口に着くのか不安になるような薄暗い曲がりくねった林道を走り登山口へ着く。登山口には数台の車が止まっており安堵する。登山口からは、いきなり急登で息を切らせながら急登を登りきると尾根道に出る。風越の頭には休憩小屋がありそこから見る木曾川の谷間は最高でした。尾根道の森は心地よい森で時折吹く風は冷たく疲れを癒してくれました。風越山は眺望もなく尾根にポツンと標識と三角点がありました。少し足を延ばし中央アルプス展望に行き展望と思いましたがここも展望はなく早々と引き上げ泊地に向かいました。9月8日 前日の登山から体調不良の会員が2人発生。幸いにも木曾福島駅の近くの宿だったので翌朝二人を車で駅まで送り6人での例会実施となりました。車で曲がりくねった林道を走り権兵衛峠の登山口へ向かう。登山口の駐車場は広くトイレも完備している。駐車場で準備し歩き始める。昨日ほどの急登ではないが2か月ぶりの登山はきつい。暑い中汗をかきながらアンテナピークに着く。アンテナピークから見る経ヶ岳は遠く急登も見えて気分もなえる。アンテナピークからの登山道は面白い名前の付いた奇岩や木曾川と信濃川の分水嶺の標識があり楽しませてくれる。森も綺麗で変化にとんだ登山道で整備も行き届いていました。駐車場も広く登山道も整備されているのは6月から7月にかけて多くの花が咲きそれを目当てに多くの登山者が訪れる山でした。お花畑を過ぎ最後の急登を登り緩やかな登山道を上がりきると頂上に着く。山頂には経ヶ岳の名前の由来がわかる石碑や地蔵が立っていました。頂上はガスっていたので展望はなく雨も降りそうなので休憩をとり早々に下山しました。帰りの高速は車線規制による工事渋滞などで時間がかかり夜遅く大阪に着きました。記:小椋(勝)									
連番	1229	例会No.	一般 830	内容	高野参詣道・京大坂道	実施年月日	2024/9/8	担当者	飛田、山倉(康)	
参加者	池田、佐野、前田、村木(と)、山倉(知)								参加者数	7
担当者コメント	9月に成っても猛暑を引きずる日差しがあるものの、湿度に救われ、何とか目標の女人堂まで辿り着く事ができました。しかし、高野山ケーブル駅へのバスが8/24から不通となっていることをが掲示されており、已む無く不動坂を降りて極楽橋駅まで辿り着かなければならぬことになってしまいました。京大坂道は前半の道にタイヤが道標になっていて分かり易いものとなっていましたが、極楽橋手前の車道から極楽橋駅を目指す標識を見落とし、高野山に向かう車道を50mほど進んでしまった事は反省点です。コース全体は山道というよりは車道が多く、山道らしいのは最後のいろは坂ぐらいでしょう。記:飛田									
連番	1230	例会No.	一般 831	内容	京都・焼杉山～金毘羅山	実施年月日	2024/9/15	担当者	山倉(康)、西村(晶)	
参加者	前田 大森 島野 上野 山倉(知) 佐野								参加者数	8
担当者コメント	9時30分大原バス停で降りると暑さのせいかわ観光客はほとんど見かけません。準備を済ませ出発し寂光院への道を進み高野川を渡ってすぐ右側に登山口を見つけることができました。雑草が茂っており道標もないので見落としそうです、登り始めから結構急です。9月も半ばというのに陽ざしこそありませんが蒸し暑く風通しも悪く汗が吹き出します。30分ほど登って給水休憩、以後30分に1回程度に休憩を取り樹林の中を2回の上り下りで11時15分焼杉山着。全く展望がききません。ヒル出没の情報もありましたが道は乾燥しており幸い遭遇しませんでした。適度にテープマーキングがあり迷うこともありません、ここから400m下って100m登り返し12時40分翠黛山着。ここから起伏のある稜線を約1時間歩き13時30分金毘羅山着。途中林間から大原の里が見えるところもありましたが展望の利かないコースです、あとは江文峠経由で下山し15時戸寺バス停で本日の山行終了としました。今日は一人の登山者とも会わず、先頭でクモの巣との戦いでした。酷暑の中皆様お疲れさまでした。記:山倉(康)									
連番	1231	例会No.	OP 392	内容	八ヶ岳	実施年月日	2024/9/21~23	担当者	森本(善)、西野	
参加者	西村(晶)、山倉(康)、有永、上野、西村(美)、岡部、山倉(知)、大森、池田、中山								参加者数	12

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

風雨とアカデミックと快晴の八ヶ岳 台風からの湿気が日本海沿岸から南下中の前線にエネルギーを補給している悪天候予想の中、ウェザーウォッチ担当者、現地担当者、参加者の情報等を総合的に判断した結果、最終的には「山に行ってみないと判らない」との単純な結論に達し、八ヶ岳山行を実施した。9月21日(土) 北横岳 午前6時に大阪を出発。曇り空の下、蓼科に向かう。途中の中央高速道路の渋滞は意外と少なく12:00頃に北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅着。ここで栃木県から岡部氏、地元原村からSL西野氏と合流。早速ゴンドラに乗り込み霧と強風の山頂駅に着く。参加者黙りこくっている。12:30 雨具を付け北横岳に向かう。坪庭という溶岩台地に上がり濃霧の中、山頂に向け北八ヶ岳特有の苔の絨毯に覆われた樹林帯の中を登る。景色は全く見えず約1時間で北横岳小屋着。雨は降っておらず休憩する。途中SLの西野氏より北横岳の成り立ち、地形の特徴、年代、溶岩の流れによる特異地形の説明などのアカデミックな地形・地質解説を聞きながら登る。八ヶ岳全体がほぼ火山活動によってできたこと、八ヶ岳の南北で西天狗側と横岳西面と権現・三ツ頭南面で起きた山体崩壊の説明など、今までとは違った目で自分の登っている山を眺めることが出来ました。EPEに歴探、高山植物以外に、新たな境地が拓かれた歴史的瞬間でした。参加者はひたすら頷くばかりです。頂上では北峰、南峰を共に登り、北峰周辺の赤い岩塊は溶岩が火口の酸素により高温酸化を起こし赤く変色した等、西野氏より学術的説明を強風と濃霧の中、自分の身体が飛ばされないようにして必死に聞きました。専門的な説明を受けた後、同ルートで山頂駅に向かって下山を開始。ロープウェイに乗り15:00山麓駅着。その後宿泊先の別荘に向かう。別荘では、各自夕食を作り、明日の計画の説明を受ける。・雨が強い場合、天狗岳は登らずニュー〜中山峠〜高見エスケープして白駒池に戻る。・又は、ニューから引き返し、再度、高見石に登ることなどを伝える。

9月22日(日) ニュウ 本来ならば、今日のニュー〜天狗岳がメイン山行であるが、天候不安定等で出発を遅らし6:00別荘着。(台風は中国大陸に逸れると思っていたが、ビックリ突然東に進路を変え能登半島に向かいだした)7時に白駒池駐車場着。西野SLが出発前の体操を行い、青苔荘周りで霧に包まれた白駒池畔の木道を半周程歩くと白駒池を離れ、白駒湿原を通りニューに向かう。傾斜が増したところから雨が降り出し、途中本降りとなる。北八ヶ岳らしい瑞々しい苔のじゅうたんの樹林帯を登ること約30分位で大岩が積み重なったニューの頂ぎに着く(9:00)。頂からは佐久側と白駒池が濃霧と雨の合間から見る事ができた。今回も強風に耐えながら記念撮影 雨は相変わらず降り続け、止む気配なし。このまま白駒池にもどり、小雨になるのを期待しながら次の高見石に向かおうとするが、参加者から「わし、膝を痛めてリハビリ中、「体力が・・・」「坂くのが早い」などの声や、さらに「雨はますます強くなるんじゃないのか」等のヒソヒソボソボソ音が聞こえる中高見石に向かうが、雨がより一層強くなる。白駒荘横の高見石登山口にて「今日の山行はここまでです。」と、伝える。全員、安堵の表情が読み取れた。高見石小屋の揚げパンは諦めました。白駒荘前を通過し、11:00駐車場着 その後、明治温泉に向かい(昔は湯治場だったとの事)ゆっくりと湯船につかり途中、画家である東山魁夷の「緑響く」のモデルで有名な御射鹿池を見学し別荘に向かう。別荘では、ジンギスカン、水炊き、ビール等そして、飛び入りの西野夫人も加え再度、西野講師より八ヶ岳の成り立ちや地形について、なぜ小海線沿いに「海」のつく地名が多いか、なぜ北杜市の富士川沿いに長大な河岸段丘ができたのかなど、御教授を受ける。やんややんやの大喝采でした。講義後明日の縞枯山の打合せをする。

9月23日(月) 縞枯山 7:00山麓駅着 快晴 駐車場で登山準備を済ませた後、西野SLが出発前の体操を行い、その後有永氏から太極拳による身体活動を教えてもらう。しかし、このままでは太極拳が延々と続き出発できなくなる恐れが出てきた為、途中で打ち切り登山を開始する。元の計画では、ロープウェイの山頂駅からの登山開始であったが、今日は、計画を変更し山麓駅からロープウェイを使わず徒歩で山頂を目指した 昨日までの風雨とは違い、さわやかな風と八ヶ岳ブルーともいわれる抜けるような青空であった。爽風と時おり聞こえる小鳥の声に癒されながらひんやりとした空気の中、蓼科高原を背中にゆっくりと登る。秋深くなると黄色く色づくであろうカラマツ林や、針葉樹林を眺めながら高度を上げていくと、遠く北西側に、槍、大キレット、穂高の稜線そして御嶽山、さらに後方には南アルプス甲斐駒ヶ岳、鋸岳、仙丈岳もくっきりと眺められた。約80分で山頂駅着(9:00) 縞枯山と雨池山に挟まれた草原のような八丁平を行くと、青い三角屋根のロマチックで可愛い縞枯山荘が現れ、八ヶ岳ブルーの下、屋根上で布団干しをしている山荘主を横目で見ながら通り過ぎ、雨池峠までゆったりと歩く。峠から右に折れ縞枯山へ向かう。ここからは苔の絨毯に覆われた樹林帯の中を頂上まで真っすぐ直登している登山道をひたすら登ること約40分で頂上着。頂上は全く景色もなく期待外れである。のんびりと休憩した後、稜線上を展望台に向かう。稜線散歩はあたかも頂上から抜け出たような道であり、右手前方に望まれる八ヶ岳の景色に見とれながら15分位で展望台着。大岩の積み重なった展望台からは真下に麦草峠を挟んで昨日登ったニューの眺め、併せて天狗岳〜赤岳〜阿弥陀岳までの八ヶ岳稜線が一望の大観は素晴らしい絶景でした。昨日までの悪天候を忘れさせてくれました。展望台からの絶景をゆっくりと堪能し、往路を引き返す。人が多くなった縞枯山荘を通り過ぎ山頂駅着。山頂駅からはゴンドラに乗り、車窓からの眺めを堪能して山麓駅着。(12:00)ここで今回の八ヶ岳山行の解散を行い、快晴のなか大阪へ帰りました。参加者の方々お疲れ様でした。記:森本(善)

担当者  
コメント

連番	1232	例会No.	一般 832	内容	湖東 長命寺山・鶴翼山(八幡山)	実施年月日	2024/9/22	担当者	杉本、小椋(勝)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	1233	例会No.	一般 833	内容	大和・龍王山	実施年月日	2024/9/29	担当者	西村(晶)、山倉(康)	
参加者	佐野、大森、上野、山田、山崎、池田、翁長								参加者数	9
担当者コメント	崇神天皇御陵前の国道を渡る手前で少し寄り道、きな粉と粒あんのおはぎとみたらし団子を買いました、今日のお昼ご飯です。額の汗を拭いながら山道を登り、山の頂に登るのも楽しいですが、お昼の食事楽しみ一つです。行燈山古墳の東側を回り込んで谷筋より山道に入る、この辺りは古墳が点在しており内部の石室が見える古墳もありました。尾根筋に出て車道を少し歩くと龍王山(南城跡)の頂に展望拔群です、金剛山 大和葛城山から二上山までが見渡せました。一段下った広場でお昼ご飯をいただきました、もちろん おはぎとみたらし団子です。下山路で少し寄り道です、長岳寺奥の院まで、うっそうとした樹林の中に、ひっそりと不動明王像が立っていました、高さ2mの火炎光背の中に高肉彫りの力強い立像です、風化も少なく、大和屈指の石仏だと言われています。長岳寺までの下山路は少し荒れていましたが慎重に下り、柳本駅では電車が停車していたので慌てて乗り込み解散致しました。記:西村(晶)									
連番	1234	例会No.	OP 393	内容	大峰・稲村ヶ岳	実施年月日	2024/10/6	担当者	西村(晶)、森本(善)	
参加者	上野、山田、山崎、池田、杉本、島野、中山、中原(正)、中原(俊)、小椋(勝)、小椋(美)								参加者数	13

# 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者コメント	<p>下市口駅に集合してから各車で登山口に集まり母子堂前より歩き始める、お天気は青空も少し見えるが曇り空です。緩やかな登山道を登り始めると法力峠、10月に入り少し涼しくなりましたが額の汗を拭きました。谷筋にかかっている栈橋の横木が朽ちている所が数ヶ所あるので慎重に進みました。峠から稲村小屋までは、高橋横手と呼ばれる尾根沿いの横側を等高線沿いに緩やかな登りが続きます。赤い屋根の稲村小屋で小休憩をしてエネルギーを補給しました。小屋の周辺の木々は広葉樹ですが紅葉には少し先のようなです。岩のバンドをへつりながら大日山への分岐になるキレットを通り稲村ヶ岳に向かう、山頂からの展望はガスに包まれて残念ながら展望は望めなかった。記:西村(晶)</p>									
連番	1235	例会No.	OP 394	内容	大峰 笹ノ窟・大普賢岳	実施年月日	2024/10/12~13	担当者	飛田	
参加者										
担当者コメント	中止									
連番	1236	例会No.	一般 834	内容	ベーシック登山No.78 六甲・摩耶山 読図講習	実施年月日	2024/10/13	担当者	野原、前田	
参加者	佐野、池田、島野、山田、山崎、大森、祓川、西村(晶)、花田(体験参加)									
参加者数	11									
担当者コメント	<p>今回の読図講習においては地形図に引かれた等高線の精緻さを実感してもらうことに最大のポイントを置きました。六甲駅に向かう電車の中で、電子地形図25000(A3サイズ)と1/12500図(A4サイズ)の拡大図を配布して今日歩くコースを認識してもらいました。六甲駅から少し歩くと、大きく二股に分かれた交差点に出ます。この交差点では地形図を見ただけで進行方向は判断できますが、あえてコンパスを使って進行方向を確認してもらいました。道路に沿って道なりに北上、2つ目の橋を渡り登山口に向かいます。登山口までの途中に三叉路がありますが、地形図をよく見ていないと坂道の下からは道路が一つ消えT字路と勘違いしてしまいます。坂の多い六甲山では注意すべき点です。途中にあった公園で新たに1/5000の拡大図を渡し、30分以上費やして読図の練習問題をやってもらいました。課題は隠れた小ピークとコル探し。読図が出来ないと数個のピークやコルの認識に留まります。でも地形図を詳しく読むと20カ所を超えるピーク、コルが予測できます。地形図の想像を超える精緻さを実感すると同時に感動も覚えてしまいます。何らの表示もない木の階段が続く登山口から登山スタート。尾根に出てから本日の最大の目的、隠れた小ピークとコルを歩きながら一つひとつを確認。長峰山のピーク(天狗塚)で昼食、大休止。天狗塚は巨大な岩が積み重なったピークで展望抜群。30分の休憩の予定だったが、山座同定に手間取ったため45分余りの長い休憩になりました。その後は杉谷峠まで一気に進み、一部車道を経て掬星台まで歩き、展望台で眼下に広がる神戸の街並みを楽しみました。そして摩耶山三角点(698.6m)と標高点(702m)探し。三角点は直ぐに分かりますが標高点が発見できません。それもそのはず、三角点は現地測量で測られて石柱が設置、それに対して標高点は現地調査なしで航空写真を基にしているのです。石柱等は存在せず「・702」と数字が記されているだけです。人間は忘れる生き物です。体で体験しないと右の耳から入って直ぐ左の耳から抜けていく。記憶に留めてもらうため、あえて無い物を探すという無駄足をやってもらいました。摩耶山からは予定を変更、ロープウェイとケーブルで一気に摩耶ケーブル駅まで降りて解散しました。来週からは秋らしい天候になり長い酷暑からやっと解放されそうです。記:野原</p>									
連番	1237	例会No.	OP 395	内容	上信越・火打山	実施年月日	2024/10/18~20	担当者	山倉(康)、森本(善)	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	1238	例会No.	一般 834	内容	石山寺~音羽山 +アルプアーNo.30鰻料理	実施年月日	2024/10/13	担当者	野原、前田	
参加者	佐野、島野、中川、長谷川、西田、池田、大森									
参加者数	9									
担当者コメント	<p>NHK大河ドラマ「光る君へ」もまもなく放送終了。滋賀県に住んでNHK大津放送局のローカルニュースを見ていると、今年は度々石山寺が取り上げられるので石山寺座主のお顔も覚えてしまいました。私は1年半ぐらい前に石山寺を参詣、当時は観光客も少なく、ゆっくりと回ることができました。その石山寺を組み込んだ例会を計画した次第。石山寺では現在「光る君へ」にちなんだ各種のイベントが行われていますが、山行があるため参詣時間を1時間に制限。主要な施設を一回りして登山にスイッチ切り替え。石山寺駅に戻り住宅街を登山口に向かう。途中通過した泉福寺という寺の掲示板に「縁は異なるもの味なもの 仏の教えは出会うもの」という標語が掲げられていました。お寺さんらしい説教じみた文言ですが、前半部分は山登りにも通じる言葉に感じました。その後、しばらく歩くと松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅を終えた翌年元禄3年(1690年)に4か月滞在したという「幻住庵」の前を通り過ぎ「国分ふれあい広場」というアスレチック広場で休憩。やや冒険的な遊具もあって子供たちが遊びまわっていました。そこを過ぎるとやっと登山らしくなる。コースはすべて「東海自然歩道」に沿っているので案内表示も多く迷う要素は余りないが、千頭岳分岐近くまではジメジメした道が続く。分岐から20分余り足を延ばしパノラマ台で昼食。パノラマ台とは名ばかりで樹林帯の中にあって見晴らしが良いのはほんの一部だけ。今回の例会コース上では音羽山の頂上も最も展望が良い。眼下には山科から京都の町並みが広がり、少し視線を右に向けると大津の町並み、そして広大な琵琶湖とその背景に比叡山や比良山系も一望できました。音羽山の頂上を後に、一路逢坂峠のある大谷駅を目指す。このコースで最も緩やかな道と最も急な600段ほどの階段が途切れながらも続く。逢坂峠に架かる陸橋を渡り「これやこの行くも帰るもわかれては知るも知らぬもあふ坂の関」で有名な百人一首の歌人を祀った蟬丸神社に至り、「逢坂山 かねよ」本店へ一直線。直ぐに座敷に通され、うなぎの上に大きなだし巻き卵が乗った「上きんし井」を注文、贅沢な一時を過ごしました。朝夕やや寒さを感じる季節となりました。酷暑の続いた長い夏もやっと終わります。来月からは秋らしい、さわやかな例会を過ごせそうです。記:野原</p>									
連番	1240	例会No.	OP 396	内容	台高 山ノ神ノ頭・馬ノ鞍峰	実施年月日	2024/10/26~27	担当者	杉本、小椋(勝)	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	1239	例会No.	一般 836	内容	金剛・葛城 3	実施年月日	2024/10/27	担当者	西村(晶)、山倉(康)	
参加者	大森、上野、山倉(知)、峯岡、森本(善)、村木(と)									
参加者数	8									

## 2024年度('23/11~'24/10)EPEクラブ活動報告

2024/10E現在 小椋

担当者 コメント	久留野峠までは緩やかな林道を登り一休み、大和葛城山まで先は長いのでゆっくりゆっくりと登る。久留野峠まで登れば金剛山頂広場まで大きな登りは無いので、笹の生い茂った山道を眺めながら金剛山に向かう。背の低い笹の生い茂った山道はなぜか心が落ち着きます、土佐の高知の伊予富士に登った時も笹の稜線が美しく感じた山歩きでした。大日岳を通り太尾塞跡より水越峠に下る、長い下りの後は大和葛城山まで440mのきつい登りが続きます、風になびくススキが見え出すと頂上までもう少しです、秋風になびくススキの穂先を眺めた後はロープウェイで葛城登山口まで降りましたが近鉄御所駅までバスの便が無かったので駅まで少し歩きました。記:西村(晶)
一般例会：49回／478名      オプション例会：19回／134名      例会合計：68回      参加者総数：612名	